

2026 年度 国際学部英語コミュニケーション学科 小論文問題

問題：以下の文章を読み、まず文章の内容を簡潔にまとめたうえで、今後あなたが異なる文化をもつ人々と接する際に、なにが必要だと考えるか、具体的な例を挙げながら 800 字以内で述べなさい。

文化や慣習についての知識も意図理解にとって重要です。私たちが外国の人と話しているうまく話が通じない場合は、言語の問題に加え、文化や慣習に関する知識の不足が関わっていることが少なくありません。

米原万里『不実な美女か 貞淑な醜女か』には、異文化間のコミュニケーションにまつわる失敗談や苦労話が数多く登場します。その中には、文字通りの翻訳としては正しいのに、文化の違いによって意図がうまく伝わらないケースも紹介されています。

そのうちの一つに、とあるソ連の音楽家の来日公演での日本人通訳者の失敗談があります。その通訳者は、公演を終えて舞台袖に戻ってくる音楽家に、ロシア語で「お疲れ様でした」（英語の (Are) You tired ～ にあたるロシア語）と声をかけました。すると、音楽家は気分を害してしまったというのです。その理由は、音楽家が通訳者の言葉を「あなたはお疲れになったのですか？（＝今日の演奏がよくなかったのは、あなたが疲れていたからですか？）」と解釈したことにあると推測されています。

日本人の感覚では、「お疲れ様でした」というのは普通の挨拶言葉で、「私はあなたをねぎらっていますよ」ということを表します。しかしそのような挨拶のない文化圏の人々からすれば、わざわざ「あなたは疲れている」とか「疲れていますか？」と言われることに何か特別な意図を感じてしまうのも無理はありません。ちなみに帰国子女だった米原万里さんご自身も、当初は「お疲れ様」に込められた意図が分からず、そのように言われるたびに「いえ、アタシゼーンぜん疲れてませーん」と答えていたそうです。

こういった問題は、今後もし機械翻訳の精度が劇的に向上し、文字通りの翻訳がほぼ正確にできるようになったとしても残る問題です。むしろ、きわめて精度の高い機械翻訳が誰にでも使えるようになった場合にこそ、他国の文化についての知識不足が問題になるかもしれません。なぜなら、何気なく放った一言が文字通り翻訳された結果、相手に「悪口」と捉えられるようなことも起こりかねないからです。

出典：川添愛『ヒトの言葉 機械の言葉 「人工知能と話す」以前の言語学』角川新書、2020年、208-209 頁